

レジオネラ属菌とその感染症について



レジオネラ属菌は感染症を引き起こす微生物で、特に温浴施設や冷却塔などで問題視されています。レジオネラ属菌とその感染症についての特徴は下記の通りです。

【レジオネラ属菌とは？】

レジオネラ属菌は、自然界の土壌や淡水に生息している微生物です。近年、レジオネラ属菌の増殖に適した人工環境（冷却塔、循環式浴槽、給湯設備、噴水など）の増加に伴い、レジオネラ属菌と知らぬ間に接触する機会が増えています。

【レジオネラ症とは？】

レジオネラ症は、**レジオネラ属菌を含むエアロゾル（水しぶき）を体内に吸入することで発症する感染症**で、肺炎型と風邪様のポンティアック熱型の2つがあります。

肺炎型は悪寒、高熱、全身倦怠感、筋肉痛に始まり、少量の粘性痰、胸痛、呼吸困難などが現れ、日を追って症状は重くなっていきます。意識障害、歩行障害を伴う場合もあり、適切な治療がなされない場合、発病から7日以内に死亡する例が多く報告されています。

ポンティアック熱型は、38時間前後の潜伏期の後、悪寒、筋肉痛、倦怠感、頭痛の症状が現れ、悪寒を伴った発熱症状が現れます。ポンティアック熱型での死亡例は報告されていません。

【法律によるレジオネラ症の位置付け】

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（感染症法）で四類感染症に指定されています。四類感染症と診断した医師は、直ちに保健所長を経由して都道府県知事へ届出する事が義務付けられています。

レジオネラ症の他には、E型肝炎、A型肝炎、黄熱、Q熱、狂犬病、鳥インフルエンザ等が指定されています。

*四類感染症とは、動物、飲食物などの物件を介してヒトに感染し、国民の健康に影響を与える恐れがある感染症

【レジオネラ症の国内事例】

一度に多数の感染者が出た国内事例として、平成14年、宮崎県日向市の**温泉利用の入浴施設で295人感染（疑いも含む）、7人死亡**の集団感染症が発生しています。このケースでは、汚染原因調査や衛生管理の改善指導等、入浴施設の営業停止期間は450日と長期に渡りました。

国内では、感染源として浴槽水が注目されていますが、レジオネラ症発見のもとになったのは、冷却塔による集団感染症でした。1976年アメリカ、ホテル屋上に設置された**冷却塔の循環水が飛散**することで、建物内のみならず、**近隣の通行者までもが感染し、221人感染、うち29人が死亡**する集団感染症となりました。

詳しくは、**当社 環境分析部 貝森（フリーダイヤル 0120-01-2590 内線318）**まで、お気軽にお問い合わせください。

- | | |
|---------------------|----------------------|
| ①環境管理に伴う調査・測定・化学分析 | ⑤放射性物質測定 |
| ②ビル管理に伴う水質検査・空気環境測定 | ⑥アスベスト・PCB等の化学分析 |
| ③水道法第20条に基づく水質検査 | ⑦労働衛生管理に伴う作業環境測定 |
| ④製品開発・品質管理に伴う化学分析 | ⑧土壌汚染対策法に基づく土壌汚染状況調査 |